

2020年6月10日

このごろ youtube で日本紹介記事を見る機会があった。日本の記事なのでたいていは日本いいねという記事がほとんどである、記事の作者は日本人、外国人(なりすまし日本人かも?)となっている。中身は日本のいいところが紹介されていて我々日本人が見るといいことばかりなので、誇らしくなる。ただ作者はまあ日本のいいことを強調しすぎているようで、政府系の日本宣伝の意図を持った連中が良いいことばかり書いているのではないかと思ってしまう。やや注意して眺めている。

ただこれらの記事の中に海外の国で現在親日国になった理由を書いているものもあり、多分内容は信じてもいい史実なのではないかと思うものを何件か見た。例えば 100 年以上前の日本の統治時代に台湾の発展の基礎を作った日本人 2~3 人がいた話、ポーランドの子供達と日本の話。ブルネイの発展に貢献した日本人の話など、いくつかの記事が紹介されている。例えば日本の台湾統治時代(植民地時代)に、決して日本は台湾を占領して単に日本の領土としていたのではなく、教育をはじめ、台湾のインフラ整備に深く貢献した日本人がいたこと、このことにより多分現在の台湾の経済発展が具現化したこと、こうした史実が台湾の教科書で現在子供達に教えられていることなどが紹介されていた。多分本当の史実ではないかと思われる。こうした台湾の発展に寄与した日本人がいたことなど残念ながら、私は知らなかった。日本では教えられないし、報道もされたことは少なくとも私がこれまで過ごしてきた中ではなかった。日本は戦時中アジア各国に悪いことばかりをしてきた。台湾でも同じだったかもしれない。こうしたことは教科書でもマスコミ報道でも伝えられてきた。しかしながらこの youtube 番組を見るまで私は日本人が台湾のインフラに多く関わってきたことなど知らなかった。台湾が日本の東北震災等で多大の寄付金や救助隊を派遣してくれたのを見て、なんでだろうともほとんど思わなかった。またポーランドと日本の絆についても youtube の記事を見て初めて知った。この年になるまでこうした史実を知らなかった。先に述べたが教科書で習ったこともなかった。過去に海外の国の発展に貢献した人物がいたことなど初めて知った。と同時にこうしたことを知らなかったことを大変恥ずかしく思った。日本人は素晴らしいだろうなどという前に日本の我々の先輩に世界に貢献した素晴らしい人たちがいたからこそ、日本を信頼してくれる国がいくつもあるのかと感動した。そしてこうした親日国があるのは決して現在の日本人が築いた絆ではなくて、過去の先輩方たちなのだとすることを痛烈に実感した。ポーランドなどでもポーランドの子供達に過去の日本人がしたことがポーランドの教科書に載っていて、その恩を忘れるなど説いている。我々の日本の教育とは何なのだろうと改めて思ってしまった。情けない話だ。もちろん日本人もアジアで悪いこともしてきた台湾も日本の植民地であり、随分非道なこともしてきたことも教科書で教えるべきだが、いいこともしてきたことも教えるべきだと思う。ポーランドの人たちがなんで日本に恩があると思っているのかなど私は何も知らなかった。多分私だけではないだろうと思う。これは逆に恥ずかしいことではないかと思う。我々の戦後の教育で日本がしてきたことのいい点ももっと教えるべきだと思う。もちろん悪いこともしてきたことも同時にだ。もしかしたら今後の日本が世界に貢献する方法が見つかるのではないかと思う。決して軍事力で対応しないで済む方法があるのではないかと思った。

私は現在の日本の科学力で最新鋭の防衛兵器の開発を行うべきと考えている。残念ながら日本を取り巻く多くの国はならず者国家が多い。アメリカもろくに。こうした中で他国が日本を攻めてきたら、現在我々は日本国民を守るべき手段がない。核ミサイルを1発撃ち込まれれば、何十万人もの人々が死ぬことになる。もちろん防衛兵器などすぐ攻撃兵に転用されることも判る。どこかの何も考えないオバチャンが騒ぐのも判らんでもない。だが隣で家族が殺されるのを黙って見ているだけしかできないことなど私にはできない。やはり武器は使う人がコントロールできるかが重要である。今の我々のトップにいるような方達が最も危ない人物であり、こんな方を選ぶ国民自体が問題と思わなければならない。やはり現在の世界情勢の中では、最も優れた武器を開発しなければならないと思う。だが防衛ということでは直接的なハードの防衛力も必要だが、やはりソフトな防衛力も必要と思われる。世の中には日本の

外交力が弱すぎて、もっと外交力を高め、話し合いでもめ事を解決すればよいと考えている、いわゆる能天気なオバチャンもいるが他の国が外交力があるのは背景に強大な軍事力があることと思う。

私が言うソフトな防衛力とは先に述べた真の親日国をたくさん作るのではないかと考える。これらの親日国の多くは日本に対してその国の人々が大きな信頼を寄せていることだと思われる。この信頼を勝ち取ることこそ重要なソフト防衛力なのではないだろうか？多分時間もかかる。例えば私はこれから寒冷化が進み全世界的な食糧不足の時代が来ると思っている。日本は世界最大の食糧輸入国であるため、すぐに食糧不足に見舞われるだろう。世界的な食糧不足なので金を積んでも食糧が輸入できない事態が来ると思う。こうした中で、今まで放っておいた農地を回復して食糧増産など可能でも何十年かかるかわからない。こうなると我々は野菜工場等の科学技術力で食糧を賄うくらいのことしかできない。現在の我々日本なら可能なことと考える。もちろん1億人以上の食糧供給は並大抵のことではできない。このためにはやはり早くこの問題に着手すべきと思われる。そしてこの技術、食糧供給ということでは十分に世界に貢献できることと思われる。もちろん輸出して外貨をかせぐことも可能だろうが、何よりも食糧不足に見舞われる国への支援が、先に述べてた日本への信頼を得るもっとも日本らしいやり方だと思う。また進行中のことでは、すでに日本が中心となって砂漠緑化等を行っている人々もおり、信頼される日本のイメージは少しずつ向上していると思われる。今の日本の教育現場で、もっとこうしたソフト防衛力とは何かと考えさせる教育を行ってもらいたいものだ。特に小学生教育！

少し長くなってしまったので、碌でもない温暖化論とか。オリンピックにかこつけた「おもてなし」を広めよう論とか言いたいことはまだあるが、またの機会にしよう！